

酪農  
[DAIRY]

生産基盤回復へ  
正念場の1年

2024年の生乳生産量

	数量	前年比 (%)
1月	106,000	-0.8
2月	101,003	+4.7
3月	109,756	+1.9
4月	107,336	+0.4
5月	111,919	+0.4
6月	105,885	-1.4
7月	106,363	-1.7
8月	105,443	+2.1
9月	102,308	+3.0
10月	34,017	+2.2

(注) 十勝管内のホクレン受託数量  
10月は上旬時点の速報値

十勝は道内有数の酪農王国だ。十勝農協連のまとめによると、酪農家1戸当たりの平均飼養頭数は220頭で前年より3.8%増えた。乳牛の総頭数は24万4287頭で、うち経産牛は13万4486頭に及ぶ。乳牛を飼育する農家は1110戸、生乳を出荷している農家は987戸を数える。

ホクレンやJA北海道中央会などでつくる北海道農協酪農・畜産対策本部委員会(道酪対)は、2024年度の全道生乳生産目標を403万トに設定した。22、23年度と続いた生産抑制から一転し、「生産基盤回復期」と位置付けて進んでいる。

0ト、大樹町11万5675トと続く。ホクレン帯広支所の24年度の生乳受託乳量は、おおむね前年より増産傾向で推移する。4〜5月は横ばい、6〜7月は前年を下回ったが、8月から増加に転じている。ただ、全道の24年度実績が目標を下回るペースで推移しているため、道酪対は25年度の生乳生産目標を403万8000トに定めた。前年度計画比0.2%の微増で、生産基盤回復に向けた正念場の1年となりそうだ。

生産基盤回復に向けては、全道目標403万8000トの外枠で、アウトイン数量4万3000トが設けられたことも大きい。いわゆる系統外から系統内出荷に戻りたい生産者を対象に、全量をJA目標数量内で配分できない場合、別立ての全道外枠配分を活用できる。



十勝の2024年度の生乳生産目標は前年度計画比1%増の128万8750トを設定

有用微生物を含んだ 良質な発酵堆肥により  
健全な土壌の維持に貢献



リサイクル・メイト®

- 生のスラリー・尿・堆肥に混ぜるだけで良質な発酵を促進
- 切り返し・曝気不要、手間をかけずどんな施設でも使用可能
- 発酵期間が短い(冬期間でも発酵が進む)
- 悪臭、ハエ・ウジの発生を強力に抑制

スラリー施与時のアンモニア揮散量は、施与されたアンモニア態窒素の23~55%にもなるので、窒素資源の有効利用の面からも、揮散防止は重要である。

[「草学」(農文協)より]

堆肥づくりの経費を削減

※ 酪農経営成牛40~50頭の試算例 (単位:1000円)

年間所要経費の比較	区別	好気性処理 (曝気処理)	嫌気性処理 (資材添加処理)
	項目		
処理資材費	0	143	
電気料	181	26	
敷料	256	192	
施設償却費	135	135	
機械償却費	540	259	
機械修理費	96	46	
計	1,208	801	

所要経費  
33%以上削減

[「自然浄化処理技術の実例」(地人書館)より一部改訂]

手間をかけずに堆肥の効果も向上

項目	区別	好気性処理 (曝気処理)	嫌気性処理 (資材添加処理)
悪臭の発生抑制		中	大
害虫の発生抑制		中	大
処理作業の効果		中	大
労力節減		小	大
敷料の節減		小	大
疾病の防止		—	大
土壌の改良		中	大
連作障害防止		中	大
塩類障害防止		中	大
生産物品質向上		中	大
ふん尿処理コスト		大	小
所要処理施設		大	小

処理効果も大幅にUP

[「自然浄化処理技術の実例」(地人書館)より一部改訂]